

マイクロ・セービングを通じた収入向上と民族和解のプロジェクト近況報告

(ルワンダ留学体験記 特別編) 山本優希 (立教大学社会学部 4年)

ARC がルワンダの現地 NGO の ARTCF (ルワンダ女性クリスチャン労働者協会) がルワンダの農村で行っている「マイクロ・セービングを通じた収入向上と民族和解プロジェクト」の近況報告です！現在、ルワンダ PIASS 大学に留学中の山本優希さんがインターン・スタッフとしてこのプロジェクトに従事してきました。その報告です。

こんにちは！立教大学社会学部4年で現在ルワンダのPIASSに留学中の山本優希です。今回は私が10月から12月の末までインターンをしていて、ARCのパートナーでもあるARTCFの「マイクロ・セービングを通じた収入向上と民族和解プロジェクト」について書かせていただきます。

プロジェクトの内容—協働は和解を促すのか？

ARTCFは主に貧困層の女性をセービング(共同の貯蓄)や式辞の授業、職業訓練を通して経済的に自立させ、女性たちが貧困から抜け出すためのサポートをしている団体です。私がARTCFを選んだ理由はセービングを通して、女性の自立だけではなく、和解をも促進している点です。少しセービングの内容を説明しますと、毎週グループごと決められた曜日に集まり、寄付として500から1000ルワンダフランをメンバーそれぞれから集めます。一定の金額を集めたら、そのお金を担保として銀行からローンを借り、そのローンを分配し、メンバー個人が小さなビジネス、例えば個人商店を作りスナックを売ったりして、お金を稼ぎます。あとはみんなで稼いだお金を出し合ってローンを返済するという流れです。セービングのメンバーは1グループ約30人です。その中に虐殺の被害者、加害者両者が含まれています。基本的にセービングのグループは週に1回は必ず集まるので、嫌でも顔を合わせなければなりません。同じ目的の為にお互いに協力し合ってやっていけるのだろうか。その点が、私が一番興味を持った部分です。

グループに参加している人々

希望通りセービング部門でインターンさせてもらえることになりました。私の毎日の仕事は女性たちが住む村に訪問し、セービングの情報を聞き出し、問題があった場合は改善策を考え、そのレポートを上司に提出することです。正直なところ、私はこのプロセスがきちんと成り立っているのかも、グループ内で和解が進められているのかも疑問でした。しかし、毎日違う村に通い、様々な女性の話を聞いているうちに分かってきたことがありました。それは成功しているグループもある一方で、うまくいっていないグループもあり、それがさらなる貧困の連鎖につながっているという現実です。失敗しているグループはローンを借りても返済しない人がおり、その人たちのせいで他の人が新たなローンを借りられず、逆にその人たちの分を負担しなければならない場合もあ

ります。その場合、マイクロ・セービングが貧困の手助けではなく、貧困に彼らを引き戻し、またグループ内の分裂をも促進してしまうのです。



グループで野菜やフルーツを売っている女性たち。

成功しているグループとしていないグループの差を比較してみた時に、明らかに違っていたことは、目的を理解しているかの差でした。成功しているグループは約束通りの時間かそれより少し前には全員が集合していて、さらに自分たちが気づいた問題点やそれに対する改善策を持ってきて、ミーティング中にスタッフにぶつけてきます。一方、成功していないグループは、約束の時間通りに来ない、5人くらいしか来ない、自分たちの現状を説明するだけで自分たちからアイデアを出さないなど受け身の姿勢がみられました。だれのためのセービングなのか、スタッフはグループをサポートすることはできるけれど、あくまでセービングのメンバーが主体的に考え、動き、自立につなげていくことが重要です。それを実行しているか、していないかがセービング成功の明暗を分けていました。

当たり前ですが、成功しているグループの方がチーム内での結びつきが強く、お互いが助け合い、民族間での壁がないように感じました。だれかが毎週の寄付を払えない時は、払える人が払うという助け合いの精神がグループ内には根付いていました。「最初は同じグループで活動するなんて無理だと思っていた。でも今は同じ自立という目標のために一緒に頑張っている仲間であり、私たちの間に壁はない。」これはある村で調査をした時に一人のジェノサ

イド生存者の女性が話してくれたことです。一緒に活動し、毎週関わり合っていくことで、相手のことを敵味方と捉えるのではなく、仲間と思えるような存在になれることにルワンダでの和解の進展を感じました。



マイクロ・セービングが成功しているグループのメンバー。マッシュルームを育てています。

現場で働くということについて

しかし、インターンでは思うように物事がうまくいかず、もどかしいと感じる場面も多くありました。一番悩んだのが言葉の壁でした。オフィスにも英語をあまり話せないスタッフもあり、オフィス内での公用語はルワンダの公用語であるキニャルワンダでした。私が話についていけないことも多々あり、そのため私が知らない情報があつてミスコミュニケーションが起こることもありました。また、女性たちとの会話もだれか通訳してくれるスタッフがいなくてできなかったのも、スタッフが忙しく、通訳まで手が回らないときは自分の力で会話しようと試みたものの、うまく伝わらず、もどかしい思いもたくさんしました。時には「なんで英語が話せないんだ」と心の中で相手を責めてしまうこともありましたが、でも、今インターンを終えてみて私が感じることは、相手に自分が望む水準を求めるのではなく、自分が相手の水準に合わせていけなかったということです。私がキニャルワンダを、フランス語をもっと流暢に話せていれば、様々な人と自由に話すことができ、また新たな一面を見られたかもしれません。不満があるならば、相手のせいにならず、まずは自分から動いてみるということ学びました。

私はたった二か月半のインターンでしたが、海外で働くというのは想像以上に難しいということを感じました。言葉の壁、文化の違い、立ちただかる壁は高いです。それでも私は将来海外で働いてみたいです。この経験を糧に、このインターンで感じたことを行動に移し、それがどう転ぶのかを見てみたいです。



彼女が、マイクロ・セービングに関わる前に住んでいた家(左)と、新しく建てた家(右)です。比べていただくと、いかにマイクロ・セービングが貧困削減に貢献し、生活を豊かにしているかお分かりいただけると思います。

ARC マイクロセービングを通じた収入向上と民族和解のプロジェクトへご協力ください♪

☆ お近くの郵便局(ATM)から 郵便振替口座 00250-2-57833 (口座名義人「アフリカ平和再建委員会」)

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-6-1 四谷サンハイツ511 号室 Tel./FAX: 03-3351-0892

E-mail: headoffice@arc-japan.org ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています!

@ArcJapanNews どんどんフォローしてください!



フェイスブック 日頃の ARC の様子やプロジェクトの近況、アフリカ関連のイベントや情報の発信をしています!

【ARC ページ】 <https://www.facebook.com/ARCJAPAN/> “いいね”、“シェア”をお願いいたします。